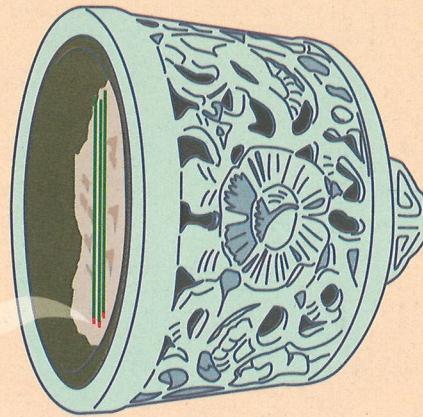


公事ひとくちメモ

## 「土香うろ」

お勤めをする時は、土香炉(陶器の  
香炉)に燃香します。燃香は、線香  
を香炉の大きさに合わせて適当に  
折り、火を付けて横にねかせ灰の

\*お線香を立てて用いることはしません。



香炉の三本の足は、一本が正面に  
くるように置きます。

※イラストは十香恒の一例です。

〒 460-0016  
◆ 名古屋市中区橘2-8-55  
○ 052-321-9201  
□ 052-321-3184  
<http://www.ohkoh.com>  
お東ネット

8

眞実の教えに出遇う

2010.5  
20,000

このリーフレットは、環境に配慮したインク、用紙を使用し作成しました。

A vertical rectangular logo with a thin black border. The top half contains the text "PRINTED WITH" in a black, sans-serif font, with "SOY INK" in a larger, bold, black, sans-serif font below it. The bottom half features a stylized graphic of the American flag's stars and stripes.

# 葬儀を 縁として

より豊かに、より快適に、より便利にと、とどまるところを知らぬ現代の肥大化した欲望に流されるわたしたちは、却って生活にゆとりを失い、

自己主張ばかりが目立ち、人間関係が煩わしくなっていないでしょうか。

そうしたわたしたちの生き方は、いまや到るところにその影を落し、厳肅な「死」までが病院や施設の中に隠蔽され、葬儀さえ最近は直送などという言葉も現れて行わない動きが見え始めているあります。

ここであらためてわたしたちに

問われることは、「いのち」の尊厳さにちがいありません。人としてこの世に生まれ生きるには、いかに多くの人々との関係があたえられて

可能ことであるとか。その意味で、人の世の大きな恵みへの謙虚こそは、残された者の姿勢であり、人の道であります。しかもそこに立つことによってのみ、悲しみをとおして仏の正法に対座する縁があたえられるのです。

そのことは、先だてる人の死が自分を見る鏡として、向きあっていく生活が始まることと言えましょう。その人がどのような生きざま・死にざまであるうとも、それはそのまま自分にとって、生きることの意味を問わしめる善知識（人生の教師）だからです。



いまや高齢化社会、しかも世界一の長寿国日本。「いのち」が常に話題になりながらも、「どれだけ生きるか」という量的いのちにばかり関心して、「どんないのちを生きるのか」という質的いのちが自問されなければ、量的な長寿は決して単純には喜べないでしょう。そうしたわたしたちに、「幸せの条件」と幸せのものは、異質である」と報らせるいのちの真実の声、それがこの口に表れる「なむあみだぶつ」でした。ここに自分にとって「葬儀」は、「死」を師として「生」を生きる！宣誓式であり、先だてる人生の先輩（諸仏）への最後のご奉仕として、厳重に執り行う儀式です。

さあ、真実の教えに遇いましょう。